

尾道市市史編さん委員会事務局だより

市史広報 * 第2号 *

CONTENTS

- 【巻頭特集】 尾道の都市形成と東ゾーン
- 【特集関連】 ブラヒガシ@東ゾーン街歩記
- 【トピックス】 北前船関係史資料の調査等
- 【事務局発】 地域単位での町史編さん／刊行計画

旧尾道市街の 都市形成と東ゾーン



尾道市街

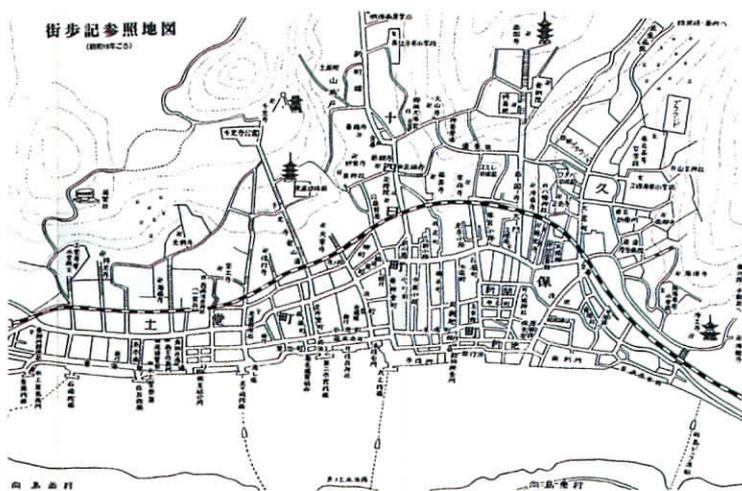
わげ玉の
夜はあけぬらし
玉の浦に
あさりする田鶴
鳴き渡るなり
萬葉集より

特産米酢



チイルマ

防地口辺りから西方向へ向けて市街を望む。正面の山は千光寺山 写真絵葉書 昭和初期 尾道学研究会



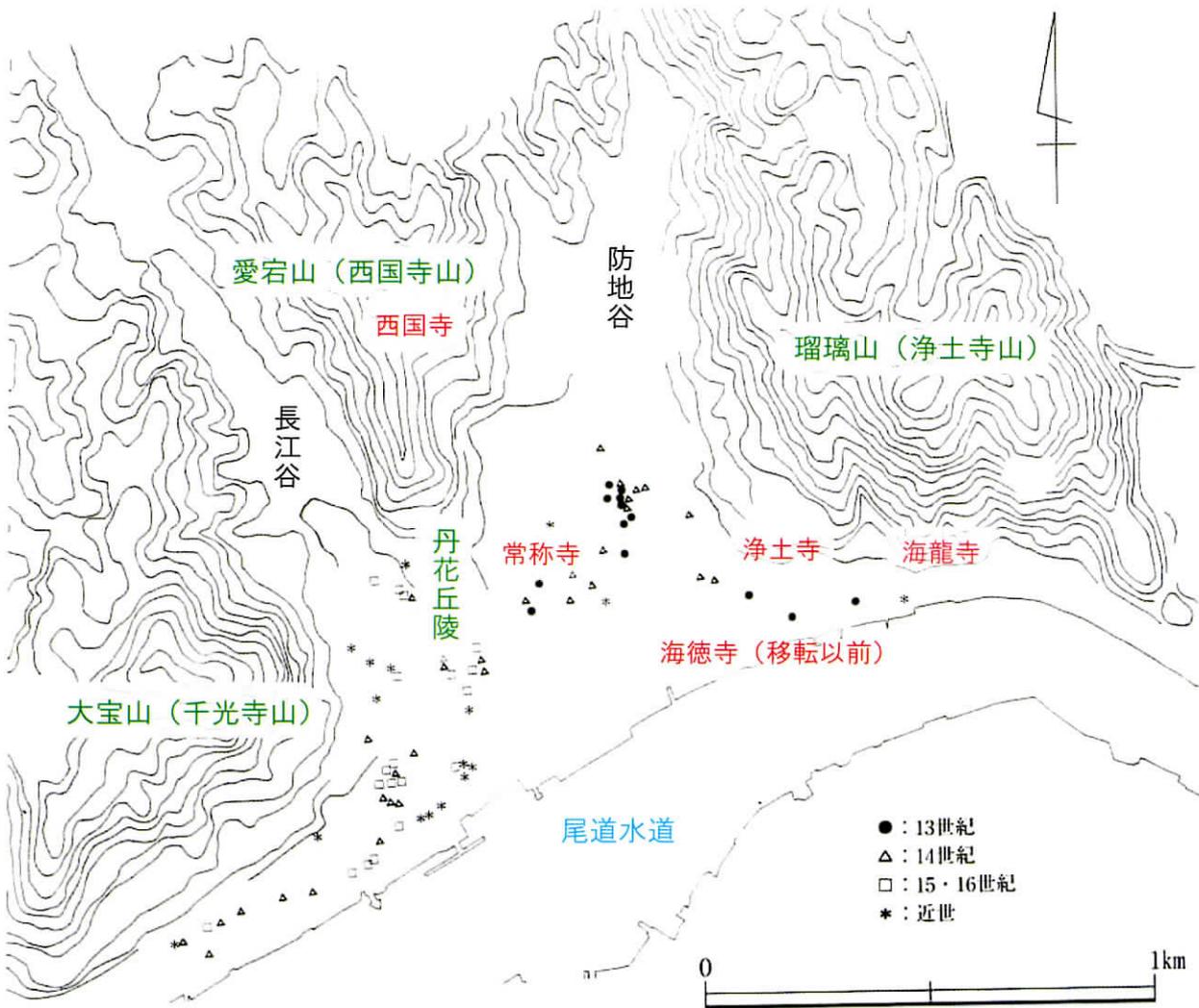
昭和10年（1935）頃の旧市街図

『尾道の民話・伝説』（尾道民話伝説研究会・1984年）附録より

尾道旧市街は東から「久保（くぼ）町」、中心部に位置する「長江（ながえ）町」及び旧地名では「十四日」と書いて「とよひ」と読む「十四日町」（長江地区が十四日町を含む）、そして西側を占める「土堂（つちどう）町」の三つの町で構成され、これが本来の「尾道」と呼ばれる範囲になります。その隣接周辺は「後地（うしろじ）村」の区域になります。尾道と後地の境界はかなり入り組んで複雑なものとなっています。また、尾道駅周辺は古くは「栗原村、後に栗原町」の領域となりました。

※町域については江戸期の地誌参照。

旧市街を構成する「尾道町」



尾道遺跡出土品の時代別分布状況 八幡浩二「中世「尾道」における都市の成立と展開」(『考古学研究』2004年)より

防地谷筋に集中する中世の遺物・遺構

尾道旧市街は、ほぼ全域が中世から近世にかけての港町の遺跡「尾道遺跡」となっています。この範囲の内で建物の建替え等土地の造作工事の際には、尾道市によって発掘調査が実施されています。昭和50年(1975)から現在までに、204次にわたる発掘調査が行われ、当時の生活を垣間見せる遺物が多量に出土しています。

この出土品を時代別に整理し、出土地点毎に市街図上に示したものが上の図です。こちらは尾道市史古代部会及び考古部会委員の八幡浩二氏(福山市立大学准教授・考古学)が、平成16年(2004)に発表された論文「中世「尾道」における都市の成立と展開」に掲載されたものになります。これによってみると、最も古い13世紀代の遺物(●印)は丹花丘陵より東の久保・防地谷にのみ見られ、以降、14世紀(△印)、15・16世紀(□印)、そして近世以降(*印)は丹花丘陵より西の長江から土堂にかけて分布しています。

また、尾道と言えはお寺ですが、寺院の立地から見ると、開基・建立が13世紀代、もしくはそれ以前に遡り得るお寺は、東から海龍寺(律宗→真言宗)・浄土寺(律宗→真言宗)・海徳寺(時宗)・西国寺(真言宗)・常称寺(時宗)、加えて天寧寺(臨濟宗→曹洞宗)もそれに続きますが、天寧寺以外の5か寺全てが防地谷の界隈、町域で言う久保町に立地しており、寺院の年代から辿っても、尾道町東半の久保界隈に古い時代を見ることが出来ます。

番外編としては、尾道町内で最も古い小学校も久保で、「第一尾道尋常小学校」として明治6年(1873)に開校(母体は東土堂町の天寧寺境内で久保町内へは同9年に開設)し、続いて第二・土堂、第三・長江と続きます。



▼①丹花丘陵：丹花丘陵上には福善寺（浄土真宗）が建ち、中世には丹花城という山城があったと伝える。明治24年（1891）の鉄道敷設によって分断された断面状況がよく分かる。国道を挟んで南の本通りへ通じる丹花小路との高低差にも注目。

▼②熊野神社：夏祭りの一つ「水祭り」で知られるお宮で通称は権現さん。お宮の下には神用水となった井戸「水尾井」があり、「水尾」はこの界隈の古い地名（水尾町）。

▼③旧住友銀行尾道支店：明治37年（1904）の建造で、石造建築に見えて実は木造建築。建築家・野口孫市ら住友臨時建築部（現在の日建設計）が手掛け、監修として野口の師匠であった辰野金吾（東京駅や日本銀行本店を手掛けた建築家）の名も棟札にある。

▼④風呂ノ小路北の鉄道ガード：山陽鉄道時代に遡るレンガ積ガードの一つ。半分はコンクリート製でこれは線路が単線から複線になった時の遺構。風呂の意は来歴不明。

▼⑤勤商場：商業を勧める場としてかつてはマーケットで賑わった場所芝居小屋もあったとか。明治には私塾や私設の図書館（市立図書館の前身）も開設されるなど商業と共に文化教養の場でもあった。

▼⑥仲之町通り：歓楽街の「新開」メインストリートとして最も賑わいを見せた一角。ネオン看板が夜の街の雰囲気醸し出す。

▼⑦蔵島神社・八坂神社：元々は蔵島神社が海に突き出す形で鎮座（江戸期）、明治以降に八坂神社が合祀されて神様のお宮シエアを見る。民話スポット「かんざし灯籠」と町内一の大きさと技巧を見せる狛犬が参詣客を迎える。

▼⑧芝守稲荷：ここだけ時代に取り残されたかのような風情を漂わすお稲荷さんは、傍ら（現在の教育会館）にあった芝居小屋「借楽座」を偲ぶ江戸時代の置き土産（芝居小屋の商売繁盛を願って創建）。

▼⑨鉄道で分断された参道風景：鉄道敷設によって本通りから山手へ通じる社寺の参道が各所で分断されたが亀山八幡宮の参道もその一つで、鉄道・国道以南に隨身門と鳥居が分離して建つ。

▼⑩延命水：時宗正念寺境内。延命地藏にあやかって延命水と名付くこの井戸水は、大正末の上水道敷設以前、ここから水を引いて久保の料亭等へ販売されていた。まさに当時の高級ミネラルウォーターといえる。

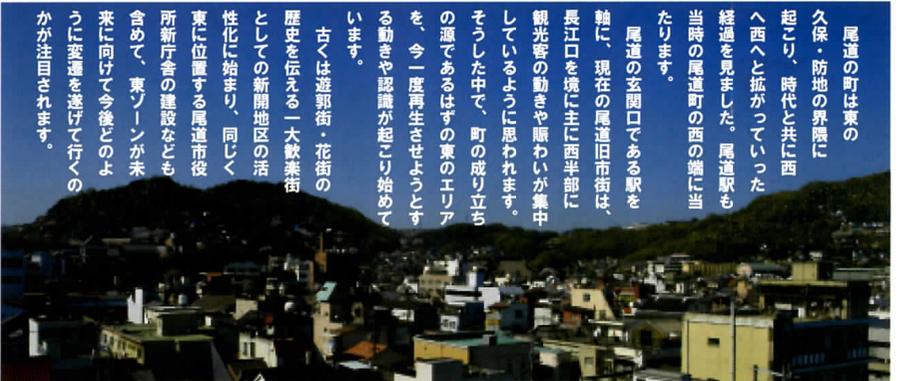
▼⑪近代建築の久保小学校校舎：昭和8年（1933）の建造になる歴史的建造物として広島県の近代化遺産にリストアップされている。

▼⑫荒木村重隠通と茶室水之庵：織田信長を見限り、毛利へ寝返った戦国武将にして茶人の荒木村重（茶人名は道薫）は、毛利氏を頼って西国へ落ち延びたが、その隠遁地は尾道と伝えられ、図書館の界隈にあった寺に籠ったという。寺は後に「水之庵」という時宗の寺になるが現在は廃寺で跡形もない。図書館2階にある茶室はそのゆかりから「水之庵」と命名されている。

▼⑬暗渠になった防地川：現在は車道となっている防地通りは川が暗渠になったもので、川と見ると不自然なカーブも納得。川端、新橋など痕跡を示す地名も残る。

▼⑭勇徳稲荷：俗に化粧瓦と呼ばれるカラフルな意匠が鮮やかな路地裏のお稲荷さん。尾道町内の夏祭りでも最古の勇徳さんのお祭り。例年5月第2土曜日の夜に開催。

※敷設の際にはマナーを守って、地域や神社仏閣に迷惑のならないようにしましょう。



尾道の町は東の久保・防地の界隈に起り、時代と共に西へ西へと拡がっていった経過を見ました。尾道駅も当時の尾道町の西の端に当たります。

尾道の玄関口である駅を軸に、現在の尾道旧市街は、長江口を境に主に西半部に観光客の動きや賑わいが集中しているように思われます。そうした中で、町の成り立ちの源であるはずの真のエリアを、今一度再生させようとする動きや認識が起り始めています。

古くは遊郭街・花街の歴史を伝える一大歓楽街としての新開地区の活性化に始まり、同じく東に位置する尾道市役所新庁舎の建設なども含めて、東ゾーンが未来に向けて今後どのような変遷を遂げて行くのかが注目されます。

【中世】嘉暦元年（1306）道通・道性夫妻の発願で浄土寺再建着手
【近世】宝暦年間（1761-1768）久保新地一帯の埋立完了▼宝暦5年（1765）久保米場新地が作られ米市が開かれる▼文化11年（1804）久保新地に常設の芝居小屋「借楽座」開設▼天保11年（1840）借楽座にて「富くじ」興行
【近代】明治6年（1873）久保小学校開校▼尾道1広島間に電信が開通し久保新地に尾道電信分局設置▼明治12年（1879）久保米場町に国立第六十六銀行（広島銀行の前身）開業▼明治24年（1891）山陽鉄道敷設▼明治37年（1904）住友銀行尾道支店が土堂町から久保米場町へ新築移転▼明治42年（1909）市立高等女学校（後に県立、現尾道東高校）開校▼大正3年（1914）県下で最初となる市立図書館が久保本通りへ開設▼大正9年（1920）簡湯小学校開校▼大正13年（1924）本通り東端の映画館「太陽館」開設▼昭和7年（1932）防地川を暗渠にして道路敷設▼昭和11年（1936）現在の市立中央図書館の位置に市立厚生病院（現市民病院）開設
【現代（戦後）】昭和33年（1958）借楽座後身の映画館「尾道セントラル劇場開館」▼昭和35年（1960）尾道市庁舎完成▼昭和38年（1963）公会堂本館完成▼平成2年（1990）市立図書館が現在地へ新築移転▼平成5年（1993）尾道東映が閉館し新開の映画館街消滅▼平成11年（1999）尾道白樺美術館（現尾道市立大学美術館）開館▼平成12年（2000）おのみち歴史博物館開館▼平成19年（2007）本通り東端に位置する橋本家の茶園「爽籟軒」庭園開園

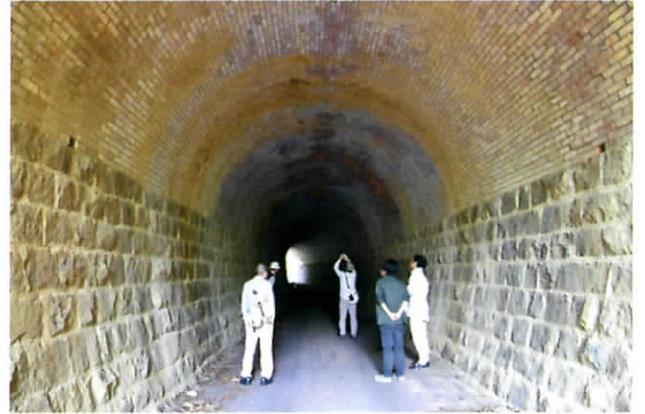
尾道「東」ゾーン年表

市史編さん事務局トピックス



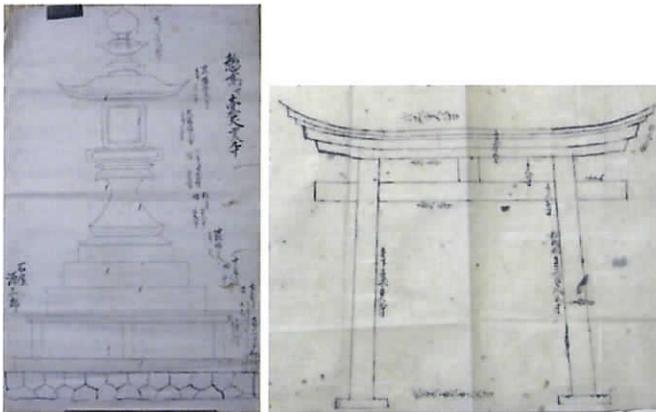
【市史編さん地域協力員発】

民俗部会委員の尾多賀晴悟氏を講師に迎えて、市史づくりについて学ぶ第1回研修会を実施。



【考古部会発】

御調から瀬戸田まで主な考古系史跡を合同巡見（写真は木ノ庄町・旧尾道鉄道4号トンネルにて）



【近世部会発】

北陸及び北海道に遺る北前船関係史資料の調査（新潟県糸魚川市・北前船主伊藤家文書中の尾道石工設計図）



【文化財部会発】

着々と進む仏像調査の様子（東土堂町・光明寺にて）
© 村上アーカイブス／撮影：麻生祥代（村上アーカイブス）



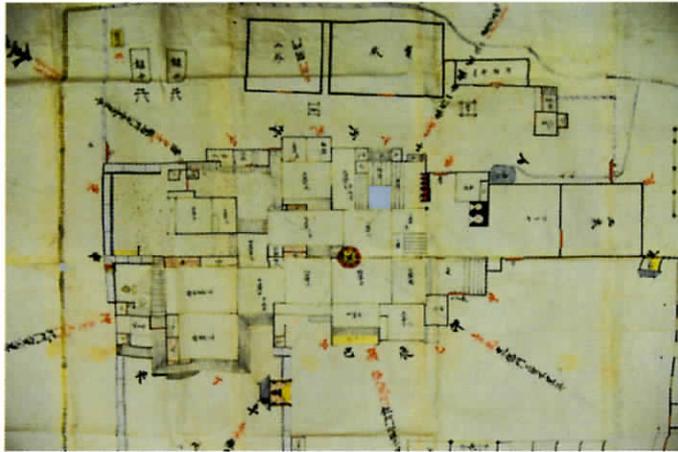
【事務局／近代部会発】

国文学研究資料館（東京）で尾道関係行政文書の撮影（明治期の旧向島東・高須・浦崎・百島村役場文書を収蔵）



【事務局／近世部会発】

三井文庫（東京）所蔵「尾道絵図」を確認調査（江戸時代前半頃と見られる尾道旧市街の古地図）



栗原町の旧家が伝えた屋敷の家相図（江戸期）



編集が進む『原田探訪ガイドブック』の一部分

地域単位での町史編さん

市史編さんを地元の側からサポートいただく存在として、「市史編さん地域協力員」を御調から瀬戸田までの各地域に配置してありますが、この新たな市史編さんの機会に、今一度自分たちの地域の歴史・民俗・文化を見つめ直し、記録し、伝えていこうとの趣旨で、協力員発での自主的な歴史編さん作業が各地域で沸き起こっています。

原田地域を担当する原田町歴史・文化同好会（佐藤守会長）では、『原田町史』ともいえる『原田探訪ガイドブック』の取りまとめに着手し、間もなく完成を迎えようとしています。

栗原町でも個人協力員の発起によって、幻の『栗原町史』編さん（以前に発起されたが頓挫した経過）に向けて、地元の歴史を物語る史資料の発掘収集と整理が進められています。

こうした小さい単位での地域史編さんの取組みも、大きな市史編さんの下積みとなる事は言うまでもなく、更なる拡がりに期待が寄せられるところです。

『新尾道市史』刊行計画

市制施行120周年にあたる平成30年度を振出しに、40年度までの11年計画で、新市域を網羅しての『新尾道市史』を編さんします。全11巻の刊行スケジュールは次の通りです。

- 平成30（2018）年度 文化財編 上巻
- 平成32（2020）年度 文化財編 下巻
- 平成33（2021）年度 史料編 近代・現代
- 平成34（2022）年度 史料編 近代・現代
- 平成35（2023）年度 史料編 古代・中世
- 平成36（2024）年度 民俗編
- 平成37（2025）年度 地理編
- 平成38（2026）年度 通史編 原始・古代・中世
- 平成39（2027）年度 通史編 近代
- 平成40（2028）年度 通史編 現代

WANTED

史資料や情報をお寄せください

古文書や古写真（写真絵葉書を含む）、古地図、尾道の話題を報じる古新聞など、市史編さん委員会事務局では、幅広い分野において尾道に関わる史資料を収集しています。また、無形の伝承（地域に伝わる言い伝えや独特な慣習、祭礼芸能等）についても収集対象となります。もし皆さんの自宅や周辺で、あるいは地域で、そうしたものが発見される場合は、事務局へご一報下さい。史資料については複製（写真撮影・コピー）を取らせていただくのみで、現物については速やかにお返しさせていただきます。情報提供は下記の事務局連絡先までお願いします。お電話での受付時間は平日9:00~16:00（以降は文化財係：0848-20-7425へお願い致します）

編集後記*2017.12

こんにちは！寒さがひとしお身に染みる頃となりましたが、風邪などひかれていませんか？

市史広報も第2号を迎え、様々な内容をお伝えできるようになって参りました。

今回の特集では、東ゾーンを焦点に尾道旧市街の歴史を垣間見ていただく事ができたと思います。様々な場所で歴史を楽しむことができる尾道ですが、今回はブラヒガシと称してピックアップした尾道の東ゾーンを、市史広報片手にブラっとお散歩してみたいかがでしょうか？昔の風景を思い描きながらのブラヒガシで、あなたの知らない新しい尾道を発見できるかも知れません。では、第3号もお楽しみに！（S.S記）

※『市史広報』は年に2回程度の発行を予定しております。みなさんの様々なお声や情報をお待ちしております。